令和６年度　かほく市立高松中学校　学校評価中間報告書

令和6年9月18日

経営目標		取組内容	現　　状 （令和5年度最終報告より）	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたがDの場合再検討	評価		後期の方向性
							%	
1	学力向上	①「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりの充実	・カリキュラム・マネジメントの柱である「表現力」に重点を置いて、令和5年度の実践を踏まえ「思考を深め、伝え合う力」を高める授業づくりをめざす。 ・これまでの授業実践の成果より、教員・生徒ともに授業等で、当たり前のように端末を使用する様子が見られる。しかし、授業において使用のパターン化、行き詰まり感も感じるため、生徒に応じた「個別最適な学び」の導入について学校研究を進めて行く。そのことが、生徒の学力向上につながると考えている。	・教職員は、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問をしている。 【教職員・努力】	A：95%以上 B：90%以上 C：85%以上 D：85%未満	C	85.0	・今年度より３年間「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究推進校」の指定を受け、全教職員で実践を取り組み始めた。 「令和の日本型学校教育」を生きていく上での課題解決に迫ることと捉え、今年度は授業において子供が自ら選択する場面（子供の選択肢として目標、時間、方法、学習形態、道具、問題の６つ）のある授業展開及びそれぞれの選択肢の中に、効果的にICT機器を活用することに取り組んでいる。 後期も引き続き、子供が自分で自分の背中を押す学びと他者の学びと協働することで、各教科でつけたい力の獲得を目指していく。
				・生徒は、まとめや振り返りで、自分の考えを表現することができる。 【生徒・成果】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	85.9	
				・教職員は、１人１台端末等のICT機器を、授業の場面に応じて効果的に使用している。 【教職員・努力】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	90.0	
		②学力向上プラン・学力向上ロードマップに基づく取組の推進	・令和5年度は教科部会を軸として学校研究を進めた。教職員の評価も良好であった。今年度も継続して研究推進委員会が教科部会での論点（学力調査の分析、学力向上プランの作成等）を決定し、教科部会の内容を全体に還元する研修会を開催し「学力向上プラン」「学力向上ロードマップ」に基づく取組等、職員の方向性を揃えていく。	・教職員は、学力調査の結果を分析し、「学力向上プラン」に基づく指導をしている。 【教職員・成果】	A：95%以上 B：90%以上 C：85%以上 D：85%未満	A	95.0	・各種学力調査の分析（教師の指導上の課題発見）を各教科部会で行い、その分析を全教職員で共有している。その内容を「学力向上プラン」に落とし込むとともに、達成度を計る指標（過去の学力調査問題）を明記し指導している。
				・教職員は、「教科部会の内容が充実している」と感じている。 【教職員・満足】	A：95%以上 B：90%以上 C：85%以上 D：85%未満	B	90.0	

経営目標		取組内容	現　　状 （令和5年度最終報告より）	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたがDの場合再検討	評価		後期の方向性
							%	
2	豊かな心の育成	① 自己肯定感の育成	・令和5年度に、生徒と向き合う時間確保のため、授業開始を10分遅らせる日課変更と生徒との人間関係構築のために面談を月1度、時間割の中に位置付けた。教職員にとっては生徒理解の機会となった。生徒にとっては、学校の中に相談できる大人がいると思える機会となった。今年度も継続していく。	・教職員は生徒を褒めたり伸ばしたりしながら、長所を認める（伝える）指導をしている。 【教職員・成果】	A：95%以上 B：90%以上 C：85%以上 D：85%未満	A	100.0	・昨年度より始めた生徒との人間関係構築を目的とする月に１度の教育相談を今後も継続していく。教職員にとっては生徒理解の機会とし、生徒にとっては、学校の中に相談できる大人がいると思える機会としたい。 ・「自分には良いところがある」と回答した生徒は昨年度前期より３ポイント減少した。後期は授業だけでなく運動会、合唱コンクール等の行事において、前期同様に生徒の頑張りや成長を見取り、認める・褒める指導を継続していく。 ・「学校が楽しい」と回答した生徒は昨年度前期より３ポイント減少した。「楽しい」と回答できなかった１割の生徒に目を向けて、個別の支援を考えていく。 ・昨年度前期同様、約２割の保護者に「学校におけるいじめの未然防止や早期発見の取組」が伝わっていない。９月学校便り（学校評価アンケートの結果）に掲載して保護者へ配信を行った。 ・道徳の授業における教職員の自己評価は低いものの、生徒は他者の考えを聞くことで、見方・考え方の広まりとともに自身の成長も感じているようだ。今後も「思考を深め、伝え合う力」を高める授業づくりに、道徳教育推進教師を中心に組織的に進めていく。
				・生徒は「自分には良いところがある」と感じている。 【生徒・成果】	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B	73.4	
		② 積極的・組織的な「支える生徒指導」の推進	・生徒の自己肯定感、有用感を高めるために、行事や授業等で生徒の頑張りや成長を観察し、認める指導を継続していく。 ・令和5年度は学校評価の結果と併せて「学校におけるいじめの未然防止や早期発見の取組」について知らせる機会を持ったが、評価は横ばいであった。あらゆる機会、媒体を通じて、本校の取組を伝えていく。	・教職員は生徒理解に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。 【教職員・成果】	A：100% B：95%以上 C：90%以上 D：90%未満	C	90.0	
				・生徒は「学校へ行くことが楽しい」と感じている。 【生徒・成果】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	89.1	
				・保護者は、「学校におけるいじめの未然防止や早期発見のための取組」を知っている。 【保護者・満足】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C	79.2	
		③ 道徳教育の充実	・道徳の授業において、生徒は他者の考えを聞くことで、見方・考え方の広まりとともに自身の成長も感じている。教員もさらに「思考を深め、伝え合う力」を高める授業づくりを、道徳担当を中心に組織的に進めていく。	・教職員は道徳の授業において「考え議論する道徳」の実現に取り組んでいる。 【教職員・努力】	A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	C	80	
				・生徒は、道徳の授業において自分の思いを表現する場面がある。 【生徒・満足】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	93.6	

経営目標		取組内容	現　　状 （令和5年度最終報告より）	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたがDの場合再検討	評価		後期の方向性
							%	
3	健康教育の充実と体力向上	① 食育の推進	・栄養教諭を講師とした、食育についての学習会を全学年で実施した。さらに、PTAと連携し給食試食会と保護者対象の食育講座も実施した。今年度も継続していく。 ・令和5年度より残菜ゼロの取組を中止した。給食を題材に、将来の食生活や地域食材等を扱うなどの食に関する取組を実施する。 ・体育の授業で継続的に補強運動をすることや、部活動を通して体力・運動能力の向上を図る。 ・令和5年度同様、通信事業者主催のネットモラル講演会を実施したり、全校集会で生徒会が「かほく市ネットルール」の読み合わせをしたり、学校便りで保護者へお知らせしたり、あらゆる機会を通じてネットモラル・マナーについて指導・啓発する機会を設けていく。 ・メール、ネットの使用時間が調査をするたびに増加していく傾向がある。そのため、PTAや小学校と連携した取組を模索していく。	・学校は給食指導等の機会を捉え、食育指導を行っている。 【教職員・努力】	A：95％以上 B：90％以上 C：85％以上 D：85％未満	B	90.0	・1、2年生は5月に栄養教諭を講師に、食育についての学習会を実施した。後期は3年生を対象に栄養教諭より「受験と食生活」という趣旨での学習会を、保護者を対象に給食試食会・食育講座を計画している。 ・昨年度から残菜0（ゼロ）の取組を「残菜がある場合もある」と方針を変換した。昨年前期より教職員の評価が13.5ポイント増加し、残菜0の指導から、将来の食生活を見通した指導への変換が見られた。なお、「朝食を毎日食べている」と回答した生徒は96％である。（昨年同期と同じ） ・体力テスト8種目（男女とも）のうち、県平均以上の種目数は 男子：1年生2種目、2年生4種目、3年生3種目、平均3種目 女子：1年生1種目、2年生4種目、3年生1種目、平均2種目 昨年同期より県平均以下の種目数が増えている。後期は苦手種目について、保健体育の時間に補強運動を実施していく。 ・7月の全校集会で生徒会執行部がアンケートを基に、1日の使用時間、ネット上での怖かった体験、学習での使用方法等を取り上げた。6月学校便りでは「かほく市ネットルール」を保護者にお知らせしたり、実際に起こったトラブルを例に挙げ指導したりするなど、あらゆる機会を通じてネットモラル・マナーについて指導・啓発する機会を設けている。 ・平日におけるメール・ネットの使用時間は、1時間以上40.7％、2時間以上25.5％、3時間以上21.0％ と昨年同期より増加傾向が見られる。
		② 体力・運動能力の向上		・体力テストにおける、県平均値以上の種目数（全8種目） 【生徒・成果】	A：7種目以上 B：6種目 C：5種目 D：4種目未満	D		
		③ 適切なメディアの使い方の指導と啓発活動		・学校はネット社会の光と影、マナーとモラルについて指導する機会を設けている。 【教職員・成果】	A：4回以上 B：3回 C：2回 D：2回未満	B		
				・生徒は「かほく市ネットルール」を心がけている。 【生徒・努力】	A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	C	74.8	

経営目標		取組内容	現　　状 （令和5年度最終報告より）	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたがDの場合再検討	評価		後期の方向性
							%	
4	円滑な組織運営と学校の活性化	0 組織的な学校運営と校務分掌の確立	・校務分掌部会を活用し、整理・統合の視点から校務を見直すなど、取組の共通理解や自己の役割を明確にしていく。	・教職員は自己の役割が明確で職務を円滑に遂行している。 【教職員・成果】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	90.0	・校務分掌部会が、整理・統合の視点から校務を見直す共通理解の場となっている。また、夏季休業中に実施した校務分掌部会は、学校評価アンケート結果を基に、分析や改善策も検討し円滑な校務遂行のための役割を果たした。
		② 学校評価を生かした学校運営	・学校アンケート実施後は、教科部会、校務分掌部会において分析や改善策も検討している。アンケート実施後の改善策についても、定期的に検証する仕組みを構築していく。	・学校評価アンケートの結果の分析及び学校運営協議会の意見を基に、教育活動の改善位努めている。 【教職員・成果】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	90.0	
		③ 信頼される学校づくりのための連携強化	・教員を対象に、学力向上や特別支援教育について協議する場を設けたり、小学校6年生を対象に、授業体験、部活動見学を実施したりした。行事における児童生徒の交流や教職員間の交流を計画し、校区内のスムーズな連結を進めていきたい。	・小中連携において、教職員間、児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めている。 【教職員・成果】	A：95%以上 B：90%以上 C：85%以上 D：85%未満	B	90.0	・本校区3校共通の取組「子供主体の授業」について、実践報告し教科ごとで協議する場を設けた。後期には小中のスムーズな接続を図るために、6年生を迎えて、授業体験、部活動見学を実施しする。今後も業務の負担感を考慮しながら、交流や教職員間の交流を計画し中学校とのスムーズな連結を進めていきたい。
				・学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる。 【保護者・満足】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	89.6	・「学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる」の肯定的回答は昨年度前期とほぼ同じであった。今後も学校行事、各種たより、ホームページ等を活用し、学校の教育活動について保護者・地域への発信をさらに進め、理解を求めたい。
			・生徒の学校生活のようす、学校経営、学校教育についての方針が伝わるように、学校便り・ホームページ等の充実を図っていくとともに、保護者・地域からの相談や問合せには、丁寧で誠実な対応を心がけていく。	・保護者は学校便り・ホームページ等を通して、学校の方針や生徒の様子等を知ることができる。 【保護者・満足】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	93.9	
		④ コミュニティスクールを生かした魅力ある学校づくりの推進	・令和5年度は、50名を超える外部の方に教育活動に参画していただいた。今後もコミュニティスクールの強みを生かし、地域・外部の方の力を借り、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組んでいく。	・学校は、地域の外部人材を積極的に活用している 【教職員・成果】	A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	A	95.0	・1年生の地域学習、2年生の職場体験学習、3年生のSDGs学習という探究学習の講師に、1、2年生への本の読み聞かせ等に、地域の方に学校の教育活動に参画していただいている。後期もコミュニティスクールの強みを生かし、地域・外部の方の力を借り、教育目標の実現に取り組んでいく。

経営目標		取組内容	現　　状 （令和5年度最終報告より）	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたがDの場合再検討	評価		後期の方向性
							%	
5	教職員の働き方改革の徹底	① 教職員の時間外勤務の削減	・生徒と向き合う時間の確保、生徒の学力向上、教員の授業準備時間確保等の目的を持った業務の削減、整理・統合を行い、時間外勤務の減少につなげていく。 ・前年度と比較し、1ヶ月あたりの職員平均の勤務時間は減少しているが、時間外勤務が80時間を超える職員もいる。決められた時間内で働く意識をさらに高めるようにしていく。	・教職員は、効率的・効果的な取組がなされるような意識を持った働き方（働き方改革）を行っている。 【教職員・成果】	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	90.0	・昨年度から市内３中学校共通で、日課変更を行ったり、部活動の時間を減じたりしている。時間外勤務時間の削減を目的に学校単独としてできる取組は限界に近いと思われるが、今後も生徒と向き合う時間の確保、生徒の学力向上、教員の授業準備時間確保等を目的とした時間外勤務を減少する努力をしていく。 ・昨年同月より教職員平均の勤務時間は減少している。依然として時間外勤務が80時間を超える教職員もいるために、決められた時間内で働く意識をさらに高めるようにしたい。